

森林区分の特徴と取り扱いおよび利活用

区 分	森林、林床植物、動物の特徴	取り扱いおよび利活用
天然林 A	過去に炭焼き等での抜き切りがあるが、樹齢 70—100 年の比較的大径木が多く、最も面積が広い。比布側の斜面の大部分、旧旭川温泉上部、扇の沢周辺など。ミズナラ、ハリギリ、イタヤカエデ、モイワボダイジュ等。低木ではコマユミ等が多く、林床にはカタクリ等春植物が高密度に広がる。	原則として、自然の推移に任せる。 遊歩道を整備、散策、森林学習、環境教育などに利用。
天然林 B	過去の炭焼き、畑作による伐採後に成立した、樹齢 60 年程度のシラカンバ林。アズキナシ、シナノキ、ミズナラ等が混じり、いずれは樹種構成が入れ替わり多様化する。 林床にはカタクリ等春植物が高密度に広がる。	原則として自然の推移に任せるが、倒木などの処理をどうするか検討する。 遊歩道を整備、散策、森林学習などに利用。
天然林 C	旧旭川温泉上部にあったスキー場（1963 年閉鎖）跡地に再生した、樹齢 30-40 年程度の最も若く、密生した天然林。アズキナシ、イタヤカエデ、モイワボダイジュ等が多い。林床にはカタクリ等春植物が高密度に広がる。	原則として、自然の推移に任せる。 遊歩道を整備、散策、環境教育、密生した若い森林の生育過程を見る森林学習等に利用。 森林学習のため、間伐によって森林の生育を促進する小面積の実験区域の設定も検討する。
人工林 D	森林の約 18 パーセント（約 3 9ヘクタール）を占める、樹齢 40 年前後のトドマツ、カラマツ、オウシュウヨウヒの人工林。手入れはされず、9 0 パーセント程が枯れている人工林や天然林と見分けのつかない小規模の不成績人工林もある。林床植生は貧弱で春植物は少ないが、フッキソウの群落やイチヤクソウ類が見られる。	積極的に間伐、枝打ち等の手入れを行い、将来針広混交林に誘導することを基本とするが、人工林としての育成区域、不成績人工林の展示区域等も設定する。 遊歩道を整備、森林学習、林業体験などに利用。
草地 E	昭和 42 年まで行われた稜線状の牛・馬の放牧地跡の草地。ワラビや野イチゴが多く、一部に若いトドマツ造林地や、シラカンバが生育し始めている場所もある。イチゲ類が多い。春から秋の夜に稜線上をコウモリ類が多く飛翔する。 草地に群生するエゾエンゴサクを食草にするヒメウスバシロチョウが 6 月に発生する。	放牧跡地、ヒメウスバシロチョウの保全、また休憩場所としての利用等、突哨山の多様な環境維持のため、原則として草地を維持する部分を考える。そのため、推移の状況に応じて、ササ刈り、樹木の伐採などの手入れも検討する。 遊歩道を整備、散策、歴史学習、休息等に利用。